

## 学会だより

### ◇ 常任幹事会議事録

開催日時：平成19年3月3日 14:00より

開催場所：東京大学農学部

出席者：谷坂隆俊会長、長戸康郎副会長、大澤良、吉田薫（男女共同参画学協会連絡会委員）、小松田隆夫、熊丸敏博、平田豊、佐々英徳、長谷川博、中園幹生、勝田真澄、北野英己、阿部利徳、加藤鎌司、江面浩、佐藤裕、奥本裕

各常任幹事からの経過報告後、2008年春季大会開催を明治大学での開催、2008年秋季大会の開催依頼、UMINのオンライン学術集会演題抄録登録システムを利用、名簿のデータ更新時にメールアドレスの登録を依頼、名誉会員への推挙・学会功労者の表彰に関する本学会の規定作成に関して討議を行った。

### ◇ 幹事会議事録

開催日時：3月29日 14:00より

開催場所：茨城大学共通教育棟2号館

出席者：谷坂隆俊、長戸康郎、石本政男、佐藤裕、佐野芳郎、三上哲夫、原田竹雄、阿部利徳、星野次汪、江面浩、大川安信、大澤良、岩田洋佳、佐々木卓治、矢野昌裕、房相佑、阿部知子、平田豊、丸橋亘、野村和成、野々村賢一、北野英己、掛田克行、小島昭夫、長谷川博、山田利昭、山岸博、加藤鎌司、佐藤和広、村田達郎、奥本裕、中園幹生、寺地徹、勝田真澄、小松田隆夫、吉村淳、佐藤光、熊丸敏博、佐々英徳（以上39名）

委任状：森宏一、西尾剛、間野吉郎、木庭卓人、古田喜彦、石井尊生、辻本壽、薮谷勤、山川理（9名）

#### 1. 各常任幹事経過報告

1) 庶務（奥本）18年度の学会員数の推移ならびに3月27日付で行った強制退会処理（3年間会費未納者）のために一時的に会員数が減少したことの報告があった。また、中西印刷との印刷契約については19年度分も例年通り締結したことが報告された。最後に、19年度は役員改選の年にあたるため名簿を作成すること、名簿に掲載する個人データの更新依頼を2号発送時に同封することが報告された。

2) 集会（熊丸）19年度秋季大会は山形大学で、講演会が9月22日、23日に、公開シンポジウムが9月24日に開催予定であることが報告された。

3) 科研費・農学会（中園）平成19年度科研費 研究成果公開促進費「学術定期刊行物」について申請条件に印刷業者の一般競争入札制度が導入されたことが報告された。また、同科研費「研究成果公开发表（B）」について申請したことが報告された。

4) 英文誌編集（勝田）編集状況、オンライン化の取り組み状況、Breeding Scienceのインパクトファクターは一旦下がったが持ち直したこと、投稿数が若干減っていること、J-STAGEよりBSの論文のダウンロードが増えてきたことが報告された。また、J-STAGEが提供しているオンライン投稿・査読システムを導入すること、秋の大会開催時に編集委員に対するオリエンテーションを予定していることが紹介された。

5) 和文誌編集（吉村）編集状況ならびに原著論文の半分が掲載不可になっている現状が紹介された。この点に関して、多くの幹事より、研究データが十分であれば可能な限り原著論文として掲載できるように編集委員が指導して欲しい旨の意見が出された。編集方針に関しては編集委員会に一任されているが、会長より編集委員担当の幹事に幹事会の意見として編集委員会に伝えていただくよう依頼があった。

6) 学会間連携（北野）アジア作物会議、国際作物会議の企画への参画を作物学会など他学会と連携して進めていきたいという提案が会長からあった。これを受けて、作物学会との情報交換を定期的に固定メンバーで実行していくことが提案された。（平田）今年11月9日開催のアジア作物会議（バイオアジア2007、バンコク）において、収量、多収性に関するセッションを作物学会と共同企画することが報告された。また、第6回国際作物会議が韓国、済州島において来年4月に開催されること、これには作物学会と情報交換しながら企画に関わっていくことが報告された。

7) ホームページ（寺地）新たな試みとして新着情報掲載時にメールで会員に通知するようにしたが、これによって学会ホームページへのアクセス件数が増えたことが報告された。

8) 地域活動報告（佐藤裕）各地域活動への補助として5万円（北陸中部については10万円）が支給されたことが報告された。併せて、18年度より東北育種研究会が再発足されたこと、九州地域で新たに地域活動が開始されたことが紹介された。

#### 2. 議事

1) 平成19年度学会賞選考委員の選出：平成19年度学会賞等選考委員（6名）に関する投票が行われ、6名が同委員に決定した。なお、委員長は内規に従い副会長が務める。

平成19年度学会賞選考委員 長戸康郎（委員長）、佐野芳郎、三上哲夫、阿部利徳、西尾剛、矢野昌裕、北野英己（次点：山田利昭、佐々木卓治、大澤良、山岸博、平田豊、大川安信、石本政男）

2) 第4回（平成18年度）論文賞の選考：論文賞に関し

て学会賞選考委員会より推薦された候補について投票を行い、次の2件が論文賞に決定した。

〈日本育種学会論文賞第7号〉

論文名：Effect of shuttle breeding with rapid generation advancement on heading traits of Japanese wheat (シャトル育種を利用した世代促進がコムギの出穂特性におよぼす効果)

著者：Tanio, M., K. Kato, N. Ishikawa, T. Tabiki, Z. Nishio, K. Nakamichi, Y. Tamura, M. Sato, H. Takagi, M. Matsuoka (谷尾昌彦, 加藤鎌司, 石川直幸, 田引正, 西尾善太, 中道浩司, 田村泰章, 佐藤光徳, 高木洋子, 松岡誠)

掲載誌：Breeding Science 56 (3): 311-320.

〈日本育種学会論文賞第8号〉

論文名：AntMap: Constructing genetic linkage maps using an ant colony optimization algorithm (ACO (ant colony optimization) アルゴリズムによる遺伝子連鎖地図作成とソフトウェア AntMap)

著者：Iwata, H., S. Ninomiya (岩田洋佳, 二宮正士)

掲載誌：Breeding Science 56 (4): 371-377.

3) 平成18年度決算報告、監査結果 (佐藤裕)：学会収入は平成12年度から減り続けていること、収入の内訳では、科学研究費補助金増額 (210万円→350万円)、育種学辞典の印税収入100万純増が昨年度に比べて大きく変わった部分であること、支出ではページ数が減ったことによる学会誌の印刷費減、同じくページ数減による別冊印刷費減が昨年度と比べて大きく変わった部分であることが報告された。次年度繰越金386万は一見潤沢に見えるが、この程度の繰越は年度途中の円滑な支払いに不可欠であることが説明された。併せて、運営基金関係の辞典委員会への繰入金は著者への謝礼 (図書カード) の購入費用であること、50周年基金は役目を終えたので、次年度以降は項目を削除することが報告された。監査報告は木庭卓人氏の監査報告書を大澤幹事長が代読した。賛成多数により18年度決算は承認された。

4) 平成19年度予算案の検討：名簿作成費60万円は基金からの繰入とすることが提案された。なお名簿の簡略化については、常任委員会での意見交換が紹介され会員相互の連絡の利便性を考慮して従来の様式を踏襲することとした。賛成多数により19年度予算案が承認された。

5) 平成20年度春季大会 (第113回講演会) 開催地について (熊丸)：平成20年春季大会の開催を明治大学に依頼することが提案され、承認された。

6) UMINのオンライン学術集會演題抄録登録システムの導入に伴う要旨の体裁変更 (熊丸)：UMIN導入に

伴って講演会要旨の印刷費が数万円程度上がること、同システムを山形大学における大会の講演会参加登録より運用を開始することが提案された。また、シンポジウムの要旨も1課題1頁にして様式を統一することが提案された。以上の提案通りにシステム導入が承認された。

7) 印刷に関する一般競争入札制度の導入について (奥本)：Breeding Science印刷費の科研費補助金申請の要件として、印刷業者の入札による指名が義務付けられた。このことへの対応として、印刷業者指名のための一般競争入札の導入に関して審議された。

8) 会費値上げについて (佐藤裕・谷坂会長)：背景説明として、1993年以降会費値上げをしていないこと、昨今の財政状況から団体会員の減少が進行していること、これに対して雑誌刊行費が増えていることが紹介された。また、新たな活動内容、オンライン化、カラーページ化、地域活動費の設置、育種学辞典の刊行 (謝礼は270万円) が相次いで導入されてきた経緯が紹介された。値上げの必要性として、団体会員、賛助会員の減少、科研費の出版費補助の減額、査読システムや要旨登録のオンライン化などの新たなサービスの充実などによる収入減、支出増が続いていることが挙げられた。常任幹事各位には事務費節減にすでに多大な苦勞を強いていることが説明された。新たな収入源として無料配布分の別刷りの廃止、投稿料の新設などが検討されてきた経緯が紹介された。このあと、会員のための学会誌という編集方針の充実によって学会員の拡大を図るという視点から意見交換を行った。投稿者が編集委員や査読者をリストから選べるシステムにするという提案があった。また、論文構成を修正してもらう教育指導ができる体制を考えるという提案もあった。最後に、学会費の値上げに関しては、次回幹事会で引き続き検討し、値上げが必要なら次回の幹事会のあとに臨時総会を開催して審議することが確認された。

9) 名誉会員推戴、学会功労賞の表彰に関わる内規の整備について (大澤)：本学会には名誉会員、功労者の規定がないことが紹介された。以前は慣例的に70歳以上の会長、編集委員長経験者が会長より推戴されていた。この点を改めて、名誉会員の推戴規定を明確にしておくことが提案された。具体的には、名誉会員の推戴に関する規定を内規に追加することである。また、学会活動における顕著な功労者を表彰する規定がないことから、学会功労賞の設置についても提案がなされた。さらに終身会員についても提案がなされた。名誉会員、終身会員、学会功労賞に係る内規の改正は次回の幹事会で審議することが提案され、了承された。

10) 男女共同参画学協会からの提言に対する取り組みについて (奥本)：男女共同参画学協会が過去に実施した大規模アンケートに基づいて作成した提言が紹介された。学会として提言に対する取り組みを進めるために、

男女共同参画推進委員会の設置が提案され、了承された。なお、委員の任期は1年とし、委員として、吉田薫氏（委員長、東京大学）より、勝田真澄氏（作物研究所）、近江戸伸子氏（神戸大学）、長村吉晃氏（農業生物資源研究所）、金澤章氏（北海道大学）の4名が推薦され、了承された。

3. 関連報告

- 1) シンポジウム委員会（三上）より、今秋の山形大学におけるシンポジウム課題として以下の5課題を採択したことが報告された。A) 地球環境変動下での食料生産一育種はどう貢献できるか（課題責任者：加藤鎌司・佐藤洋一郎） B) エチレン—生理機作の解明と育種における研究の現状—（課題責任者：原田竹雄、江面浩） C) Triticaceae Breeding—ムギ類育種の展望と基礎—（課題責任者：主任：河原太八・佐藤和広） D) 作物の成分育種のこれまでとこれから（課題責任者：喜多村啓介） E) イオンビーム育種：その特徴と展開（課題責任者：井上雅好）
- 2) SABRAO（大澤）現在のSABRAO正会員は250名であること、次回SABRAO国際大会はオーストラリアで開催予定であることが紹介された。
- 3) JABEE（平田）農学関係のJABEEの活動として、作物、園芸、熱帯農業および育種の農学関連4学会の集まりを定期的に行っていることが紹介された。

◇ 総会

開催日：平成19年3月30日

開催会場：茨城大学講堂

1. 各常任幹事報告 庶務、集会、農学会・科研費、英文誌、和文誌、ホームページ
  2. 第4回（平成18年度）日本育種学会論文賞の発表
  3. 議事
    - (1) 平成18年度決算報告・会計監査報告
    - (2) 平成19年度予算案の審議
    - (3) 次期開催校（山形大学）の紹介
    - (4) その他
- 議事はいずれも異議なく承認された。

◇ 平成18年度決算および平成19年度予算

収入の部	平成18年度決算	平成19年度予算
1. 前年度繰越金	3,958,287	3,862,357
2. 会員会費	16,301,213	16,040,000
3. 賛助会員会費	1,040,000	800,000
4. 助成金	3,500,430	1,800,000
5. 別冊等頒布	2,984,505	3,103,000
6. 雑収入	4,741,205	3,580,300
7. 寄付金	0	0
8. 運営基金より繰入	0	600,000
合 計	32,525,640	29,785,657

支出の部	平成18年度決算	平成18年度予算
I. 事業費	18,513,860	19,233,500
1. 雑誌刊行費	13,330,597	13,168,000
2. 別冊刊行費	2,854,523	2,854,000
3. 大会費	1,200,000	1,200,000
4. シンポジウム費	227,966	550,000
5. 学会賞費	281,274	300,000
6. オンライン費	619,500	561,500
7. 名簿作成費	0	600,000
II. 運営費	9,796,063	10,302,289
1. 学会分担金	358,767	306,400
2. 学術会議関連費	0	0
3. 事務担当者手当	380,000	380,000
4. 事務費	3,223,765	3,720,000
1) 庶務	1,249,356	1,400,000
2) 編集	1,694,899	1,900,000
英文誌	1,394,164	1,500,000
和文誌	300,735	400,000
3) 集会	170,060	300,000
4) 会計	109,450	120,000
5. 事務委託費	4,672,500	4,672,500
6. 通信費・送料	725,362	730,000
7. 付属印刷物	189,336	190,000
8. 地域活動費	225,360	283,389
9. 雑支出	20,973	20,000
III. 予備費	353,360	249,868
IV. 次年度へ繰入	3,862,357	0
V. 運営基金へ繰入	0	0
VI. 学会賞基金へ繰入	0	0
合 計	32,525,640	29,785,657
基 金	平成18年度決算	平成19年度予算
運営基金	16,602,239	16,002,239
学会賞基金	3,250,000	3,250,000
50周年記念基金	0	0
事典委員会	50,323	50,323

◇ 学会賞授賞式・受賞講演

開催日・会場：同上

平成18年度 日本育種学会賞

- ・ 矢野昌裕（独立行政法人農業生物資源研究所）：イネの量的形質に関する分子遺伝学的研究
- ・ 福岡県ビール大麦育種グループ（代表：古庄雅彦）「ビール大麦の高醸造適性・耐病性・安定多収性品種「アサカゴールド」、 「ミハルゴールド」、 「ほうしゅん」の育成」

平成18年度 日本育種学会奨励賞

- ・ 野々村賢一（国立遺伝学研究所）「イネ生殖細胞形成過程を制御する遺伝子群の単離と機能解析」
- ・ 新倉聡（(株) トーホク）「アブラナ科野菜における生殖形質の遺伝学的研究とその育種への展開」

## ◇ 記者レク報告：日本育種学会第 111 回講演会 選定課題記者会見報告

会見日時：平成 19 年 3 月 26 日（月）11：00～12：30  
 会見場所：学会分館（東京都文京区本郷 7-3-1（東京大学構内赤門隣））

出席者：幹事長 大澤良，庶務幹事 中園幹生  
 参加報道機関：時事通信社，共同通信社（2 名），科学新聞社の計 3 社（4 名）

平成 19 年 3 月 30 日（金），31 日（土）に茨城大学（水戸市）で開催された日本育種学会第 111 回講演会の講演課題（計 300 課題）の中から常任幹事によって選定された以下の 4 課題について，記者会見を実施した。

### 【記者会見課題】

- (1) 講演番号 205 「アミロースフリーの完全モチ性ヒエ品種「長十郎もち」の育成」星野次汪<sup>1</sup>・清宮靖之<sup>1</sup>・鎌田拓也<sup>1</sup>・清水恒<sup>2</sup>・中村俊樹<sup>2</sup>・西政佳<sup>1</sup>・佐川了<sup>1</sup>・高畑義人<sup>3</sup>（1. 岩手大学農学部寒冷フィールドサイエンス教育研究センター，2. 東北農研センター，3. 岩手大農）
- (2) 講演番号 215 「無農薬栽培に向くばれいしょ新品種「さやあかね」の育成」池谷聡・藤田涼平・入谷正樹・千田圭一（道立北見農試）
- (3) 講演番号 234 「Po1A1 遺伝子解析によるサクラの類縁関係—ソメイヨシノの起源—」中村郁郎<sup>1</sup>・高橋弘子<sup>1</sup>・太田智<sup>2</sup>・森泉俊幸<sup>3</sup>・佐藤洋一郎<sup>4</sup>・花城良廣<sup>5</sup>・三位正洋<sup>1</sup>（1. 千葉大院自然科学，2. 静大農，3. (株)ベックス，4. 地球研，5. (財)海洋博）
- (4) 講演番号 533 「ビールの泡持ちとビール中タンパク質の二次元電気泳動像の関係」飯牟礼隆<sup>1</sup>・岡田吉弘<sup>1,3</sup>・蛸井潔<sup>2</sup>・金子隆史<sup>2</sup>・伊藤一敏<sup>1</sup>・武田和義<sup>4,5</sup>（サッポロビール（株）1. バイオ研，2. 価値創造フロンティア研，3. 現：九州沖縄農研，4. 岡大資生研，5. CREST）  
 それぞれの課題について発表者に説明用レジュメを作成していただき，それに基づいて大澤と中園が説明し，質疑応答を行った。記者会見後，3 月 26 日に講演番号 234 の記事が，3 月 27 日に講演番号 215 の記事が時事通信社から発信され，Yahoo Japan ニュース，時事ドットコムニュース等で報道された。また，4 月 6 日発行の科学新聞に講演番号 215 の記事が掲載された。さらに，4 月 11 日に講演番号 533 の記事が共同通信社より全国配信され，4 月 20 日発行の東奥日報（朝刊）に掲載された。

## 集会の案内

### ◇ 第 5 回飼料作物および芝草の分子育種の国際シンポジウム (The 5th International Symposium on the Molecular Breeding of Forage and Turf (MBFT2007))

日本育種学会は本シンポジウムの推薦団体です。  
 開催日：平成 19 年 7 月 1～6 日  
 開催場所：北海道札幌市，札幌コンベンションセンター

詳細は MBFT2007 のホームページ：<http://www.knt.co.jp/ec/2007/mbft/> 参照

飼料作物と芝草における育種・分子育種研究者に加え，バイオ燃料作物の分子育種，耐旱性や耐塩性等作物の開発，マメ科植物のゲノム比較およびアポミクシスやエンドファイト菌の分子生物学などに関わる広範な講演者の招へいを予定しています。

問い合わせ先：山田敏彦，北海道大学北方生物圏フィールド科学センター

〒060-0811 札幌市北区北 11 条西 10 丁目

Tel & Fax: 011-706-3644 E-mail: [yamada@fsc.hokudai.ac.jp](mailto:yamada@fsc.hokudai.ac.jp)

### ◇ 第 5 回国際イネ機能ゲノミクス国際シンポジウム, The 5th International symposium of Rice Functional Genomics

日本育種学会は本シンポジウムに協賛しています。

開催日：平成 19 年 10 月 15 日～17 日

開催場所：茨城県つくば市，国際会議場エポカル

詳細は <http://www.isrfg2007.com/> をご覧ください。

イネ遺伝子機能の全体像を議論する国際組織として，数年前に国際イネ機能ゲノミクスコンソーシアム (IRFGC) が結成されました。同コンソーシアムは毎年国際シンポジウムを開催し，イネ機能ゲノミクスに関する最新の知見の発表，リソース，データベース・手法の共有，国際共同研究の進むべき方向性の提示を行っています。

### ◇ 第 2 回高崎量子応用研究シンポジウム

日本育種学会は本シンポジウムに協賛しています。

開催日：平成 19 年 6 月 21 日（木）～22 日（金）

開催場所：高崎シティギャラリーコアホール（群馬県高崎市高松町 35-1）

参加申込先：(Fax もしくは e-mail で以下へご送付下さい) 日本原子力研究開発機構，高崎量子応用研究所放射線高度利用施設部，第 2 回高崎量子応用研究シンポジウム実行委員会事務局，Fax: 027-346-9687 又は E-mail: [takasaki-shisetsubu@jaea.go.jp](mailto:takasaki-shisetsubu@jaea.go.jp)

### ◇ 第 9 回植物の嫌気応答に関する国際会議 (9th Conference of the International Society for Plant Anaerobiosis, ISPA)

開催日：平成 19 年 11 月 19～23 日

開催場所：宮城県宮城郡松島町

詳細は <http://www.is-pa.org/> をご覧ください。

## 研究助成公募の案内

### ◇ 平成 19 年度化学素材研究開発振興財団記念基金「グラント」研究奨励金候補者募集 (財) バイオインダストリー協会

平成 19 年度化学素材研究開発振興財団記念基金「グラ

ント」研究奨励金候補者を下記要領にて募集致します。なお、本研究奨励金は、化学またはバイオの素材に関する基礎・応用研究および利用技術開発に携わる有望な研究者に対して、平成8年度より、研究奨励金の交付を行っているものであります。

#### 募集要項

- 1) 対象分野および対象者：化学またはバイオの素材に関する基礎・応用研究および利用技術開発に携わる有望な研究者
  - 2) 対象者の資格：交付の時点で、協会の会員（個人会員、または賛助会員会社・維持会員、会社の役員・従業員）であり、当該年度の4月1日において、年齢50歳未満であること。
  - 3) 採用件数：毎年7件以内
  - 4) 奨励金：1件につき50万円
  - 5) 申込み方法：規定用紙により、応募される研究の題目およびその概要、研究者の略歴、研究論文リスト等を提出していただきますので、ご所属・ご氏名・送付先を明記の上、下記にご連絡下さい。規定用紙をお送りしますので、以下の提出期限までにご提出下さい。
- なお、規定用紙は（財）バイオインダストリー協会ホームページからもダウンロードできます。
- 6) 書類提出締切：平成19年7月6日（金）必着、郵送でご提出下さい（電子メールによる提出は受付ません）。
  - 7) 選考方法：交付対象者は、本分野の学識経験者で構成する選考委員会において審議し、決定します。選考委員会の審議内容は公開致しません。
  - 8) 問合せ・申込み先：（財）バイオインダストリー協会（担当：土橋和之、矢田美恵子）

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-26-9 グランデビルディング8F

Tel: 03-5541-2731 Fax: 03-5541-2737

E-mail: grant@jba.or.jp URL: http://www.jba.or.jp

#### 各賞推薦の案内

#### ◇ バイオインダストリー協会賞平成19年度授賞候補者推薦募集

財団法人バイオインダストリー協会では、協会設立20周年を記念して、平成2年度に創設された有馬啓記念バイオインダストリー協会賞の趣旨を継承発展させ、本年度からバイオインダストリー協会賞を設立しました。本賞はバイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野における顕著な業績を顕彰します。本賞の授賞候補者の推薦を広く募ります。

#### 募集要項

- 1) 対象分野：バイオサイエンス、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの分野における研究・技術開発および産業化推進活動で、バイオインダストリー

の健全な発展に大きな貢献をなし、または、今後の発展に大きな貢献をなすと期待される業績をあげた個人、小人数のグループまたは組織とする。対象とする分野は、自然科学、人文科学および社会科学とし、生命倫理、リスクアセスメント等も含む。また、対象業績には、国民理解、人材育成、標準化、生物資源アクセス推進、特許制度改革、国際共同研究推進などを含む。

- 2) 対象者の資格：年齢、所属を問わない。
- 3) 賞状および賞金：受賞者（1グループ・組織は1対象者とみなす）に対し、当協会会長名の賞状および副賞100万円を授与する。2件の場合は、副賞を等分する。
- 4) 募集方法：毎年1回、候補者の募集を広く行う。自薦、他薦を問わない。
- 5) 推薦締切り：平成19年6月8日（金）（消印有効）
- 6) 推薦方法：推薦用紙を下記ホームページよりダウンロードし、所定事項をご記入のうえ、下記にご郵送下さい。後ほど、候補者には、選考委員会の規定に従い、業績のレジメ等を書いていただきます。
- 7) 問合せ先：〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-26-9 グランデビル8F

（財）バイオインダストリー協会、バイオインダストリー協会賞事務局 土橋・矢田

Tel: 03-5541-2731 E-mail: bio\_prize@jba.or.jp

http://www.jba.or.jp/

#### 日本育種学会会員異動(2007.1.21～2007.4.20)

◇ 普通会员入会：池永充伸（北海道）、高草木雅人（岩手）、後藤元（山形）、高井俊之、廣近洋彦、山田哲也、RamanBabu（茨城）、秋山仁美（栃木）、林依子（埼玉）、安彦真文、張常青、桧原健一郎、柳参奎（東京）、吉秋斎（三重）、大野香織（京都）

◇ 学生会員入会：池田祐土、亀井陽子、黄太暎（北海道）、山懸順子（青森）、鎌田拓也、清宮靖之、高橋有、玉田深平、李在民（岩手）、石井英貴、尹永根、黒田充宏、小菅一真、佐藤和人、Shakeel Ahmad Jatoi、住谷真理子（茨城）、岩本麻里、三科興平（千葉）、阿部奈津希、下川哲也、SINTHO WAHYUNING ARDIE、鈴木誠、洞庭葉子、余小林、吉田明希子（東京）、川戸高博（神奈川）、岡部佳弘（新潟）、金城博子、鈴木隆之（福井）、山本英司（愛知）、大山口暁、谷口和也、松本欣剛（京都）、奥村ゆりか、オリバーマナンキル（兵庫）、林恭平（和歌山）、艾爾肯牙生、石原大輔（岡山）

◇ 団体会員：奈良県農業総合センター（奈良）

◇ 外国会員：RAUF SAEED（パキスタン）、Sunchon National University Central Library、申京熙、李漢雄、崔碩、崔弘喆（大韓民国）、Yawen Zeng、黄樹雄、郭彩、許貞子、呉堅、高安娜、高琳、肖德裕、曾紅、張曉光、張帆、陳華、陳仲雯、董京、馬亞敏、白君礼、李亞波、劉航、林

ラン専, 林嘉, 俞哲明, 彭伯為, 趙潔, 饒蘊 (中華人民共和国)

#### 住所変更等

◇ **普通会员** : 上原泰樹, 高上馬希重, 八戸三千男 (北海道), 北野のぞみ (青森), 吉田健太郎 (岩手), 岩井孝尚 (宮城), 渡辺明夫 (秋田), 大野清春, 久保友明, 熊谷健夫, 小卷克巳, 西岡美樹, 本城正憲, 馬替由美, 松本雄一 (茨城), 秋山征夫, 加藤常夫, 野田尚信, 吉成強

(栃木), 桑田主税 (千葉), 大角信介, 野口貴, 藤本英也, 安野奈緒子 (東京), 平野久 (神奈川), 山口琢也 (富山), 藤木俊也 (山梨), 横山実果 (静岡), 春原英彦 (愛知), 松永啓 (三重), 木村貴志, 久保堅司, 佐藤大和, 田村泰章, 藤田雅也 (福岡), 上野敬一郎 (鹿児島)

◇ **学生会員** : 佐藤和人 (茨城), 室田有里 (千葉)

◇ **外国会員** : Mio Sato (アメリカ合衆国)

◇ **団体会員** : 山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場 (山形), 福島県農業総合センター (福島)